

---

# 紅ノ死神

夏騎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紅ノ死神

### 【Zマーク】

N7306K

### 【作者名】

夏騎

### 【あらすじ】

何回も見る謎の夢。

彼女はずっと、夢に出てくる。

紅ノ死神は、いったい何故、僕を呼ぶのだろうか。

## 序章 第0話 赤い道

真つ暗な道にポツン、と俺は立っていた。  
ジージーと、  
ノイズ  
雜音が響いている。

「またこの夢か…いい加減飽きたな…」

ブツブツいいながら、“いつもの”赤い道を待つ。五分ほど立っていると、赤くて細い道がじわじわとインクのように溢れてくる。

「や、今日もいるのか？死神ちゃん」

赤い道を一步一歩、ゆっくりと進つて行く。

すると田の前に、藍色の扉が現れた。

「失礼しますよ」と…

キイツと扉を開く。

『……………また来たの』

「よく言つますよ。また貴方が呼んだの？」

『…呪みは…』

「ない」

『そんなはず無い。私のところに来るものは、いつも欲で溢れてい  
て……それで』

「だから、僕は家族も兄妹も、何もかも失いました。欲しいと言え  
ば……樂に死ねる能力?」

『……戯言でしょ。キミはそんな人じゃない』

紅い瞳でこっちを睨む少女。  
彼女の名は、“死神梓音”。

「じゃ、もう時間なんで」

『……次に来たら口口ス』

「！」勝手に

後ろに振り返つて  
向こうを見ずに手を振る。

『……堂本武……興味深々……かな』

## 序章 第0話 赤い道（後書き）

今回の登場人物紹介

「堂本 武」  
ドウモト タケル

「死神 梓音」  
シガニ チョウオン

## 第1章 第1話 登場人物（駒）

「ねね、たつ君もそう思つよね？？」

「えつ？」

教室。

三階の一一番端。

私立共学高校の一年五組の教室。

話しかけてきた彼女は、榎本凜<sup>エイモン リン</sup>。

茶髪のセミロングでいい感じに口焼けしている。化粧もナチュラルでけばくない。

綺麗な藍色の瞳で僕の欲で汚れた瞳を下から覗いている。

「ん~、話ちゃんと聞いといてよ~」

「『メン』で、何？』

「ん？別に何にも言つてないよ~」

「…はあ」

可愛い僕の幼馴染。

「もー、溜息なんてたつ君ひじくない~

「凛<sup>リン</sup>は僕をじつ見てるんだ…」

「ん？ 可愛い下僕？」

- はめ

一  
あ  
また!「

「あ、もう五月蠅いしー！」

あらわし

遅が二  
た

アーリン

と後<sub>ニ</sub>か<sub>ニ</sub>凜<sub>ニ</sub>か呵<sub>カ</sub>れる

いたたたたた…なんたよもう！」

「アンタね… またハリソエ出でないでしょ」

- えへ 懸し?

一  
悪し

彼女はクラス委員長の奈々倉瞳。  
ナナクラ ヒトミ

かなうり美人でモツテモテ。  
まあ凛己もモテてるケドも、コイツは半端じゃない。

黒髪のストレートロングで黒い瞳。

「確かにモテるはずだ…」ボソつ

「「え？何（んか）いた）？？」」「

「いえ」

「や。で、アンタもアンタよ」

「何か？」

「何」の健康診断結果

ビシッと人差し指でさされたプリントには、  
僕の健康診断結果が。

「あ～みるなよ～」

「寝不足気味なんだつて？なんかへんな夢でも見てるのか、そうだ  
ろ？図星だろ！？」

「や～ん、たつ君のエッチ～」

ススス…つと椅子を僕から遠ざける凜[口]。

「人聞きの悪いこというなよ…」つちだつて困つてんだよ～

「どんな夢なの？」

# 「死神が出てくる夢」

「もうすぐ死ぬか。いや、もう頭は死んでるな」

いつもながら酷いな瞳。

「お前はもう、死んでいる——」

樂しそうに叫ぶな凛[ひるみ]

死神って言っても物騒なもんじやなくて、かわいいんだよ」

は？

一 瞳ちゃん 嫉妬しないよ

微塵もしてない

・ 同哀想なたご君　自分でふごとして振られぢやうだね

黑丸

緑き「

あ、ちょっと待って。おこそこの金髪馬鹿。コソコソしないで

「馬鹿馬鹿言つたよ…」

柱から出てきたのは、

金髪金眼ヤロー。

アホ毛付きー（笑）

「笑うな」

「あらやだいつ君。心の声まで読めちゃった?」

「キモイ。喋んな堂本」

彼の名は神藤伊織。シンドウ イオリ

「こいつ君だわドツ

「俺は馬じやね~

「あ~、伊織君。今回も身長、残念だったわね

「オメーがでけーんだよ!..」

ちなみに身長準。

凛己<sup>マサヒ</sup>伊織<sup>イワシ</sup>瞳<sup>ミツ</sup>僕

「はあ~…まあこの馬鹿には勝つて良かつたわ

伊織

「馬鹿つていうな馬鹿いつ君~!..」

凛己

「はいはい、2人とも馬鹿だからね?」

瞳

「お前に言わると傷つくなぞ瞳」

僕

「あいそひへ」

成績準は、

凜己 伊織く僕く瞳

『せつと……せつと揃つた……私の……駒』

## 第1章 第1話 登場人物（駒）（後書き）

今回の登場人物紹介

「堂本 武」

「榎本 凜己」

「奈々倉 瞳」

「神藤 伊織」

「？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7306k/>

---

紅ノ死神

2010年10月10日01時38分発行